

## みずほCustomer Desk Report 2016/08/15号(As of 2016/08/12)

### 【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	USD/CHF	公示仲値	102.21
TKY 9:00AM	101.84	1.1138	113.42	0.9752	1.2955	0.7693
SYD-NY High	102.28	1.1222	114.03	0.9765	1.3035	0.7725
SYD-NY Low	100.82	1.1132	112.74	0.9709	1.2905	0.7645
NY 5:00 PM	101.30	1.1155	113.06	0.9749	1.2917	0.7645
USD/JPY Volatility 1M ATM (NY Close Lvl)	9.54/9.94		Δ25RR	1.295	Yen Call Over	
NY DOW	18,576.47	▲ 37.05	債券市場	日本2年債	-0.1910	0.5bp
NASDAQ	5,232.90	4.50		日本10年債	-0.1020	▲0.7bp
S&P	2,184.05	▲ 1.74		米国2年債	0.7057	▲3.6bp
日経平均	16,919.92	184.80		米国5年債	1.0974	▲4.7bp
TOPIX	1,323.22	8.39		米国10年債	1.5135	▲4.6bp
シカゴ日経先物	16,825	▲55.00		独10年債	-0.1080	▲1.5bp
ロンドンFT	6,916.02	1.31		英10年債	0.5180	▲2.0bp
DAX	10,713.43	▲29.41		豪10年債	1.9070	5.5bp
ハンセン指数	22,766.91	186.36	為替市況	USD/CNH	6.6520	0.0092
上海総合	3,050.67	48.03		ドルインデックス	95.72	▲0.14
USDJPY 3M Vol	11.96	0.11%	商品市況	CRB指数	182.681	0.69
USDJPY 6M Vol	11.35	0.14%		NY金	1,343.200	▲6.80
EURJPY 3M Vol	11.35	0.05%		WTI	44.490	1.00
EURJPY 6M Vol	11.30	0.13%		Dubai Spot	43.02	2.42

### 【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
8月12日	8:50	日 対外・対内証券投資	-	-
	11:00	中 鉱工業生産/小売売上高/固定資産投資(前年比)	7月 6.0%/10.2%/8.1%	6.2%/10.5%/8.9%
	15:00	独 消費者物価指数・確報値(前月比/前年比)	7月 0.3%/0.4%	0.3%/0.4%
	15:00	独 GDP・速報値(前期比/前年比)	2Q 0.4%/1.8%	0.2%/1.4%
	18:00	欧 GDP・速報値(前期比/前年比)	2Q 0.3%/1.6%	0.3%/1.6%
	18:00	欧 鉱工業生産(前月比/前年比)	6月 0.6%/0.4%	0.5%/0.7%
	21:30	米 小売売上高・除く自動車(前月比)	7月 0.0%/-0.3%	0.4%/0.1%
	21:30	米 生産者物価指数(前月比/前年比)	7月 -0.4%/-0.2%	0.1%/0.2%
	23:00	米 ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	8月 90.4	91.5

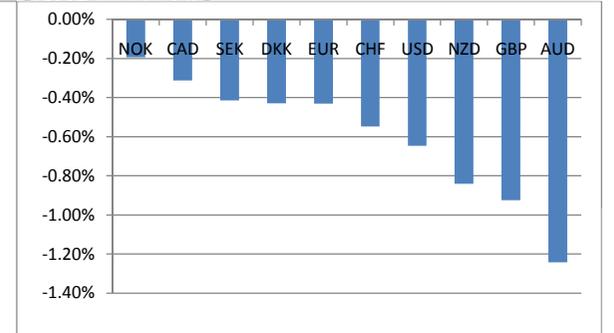
### 【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月15日	8:50	日 GDP・速報値(前期比/前年比)	2Q 0.2%/0.7%	0.5%/0.9%
	13:30	日 鉱工業生産・確報値(前月比/前年比)	6月 -/-	1.9%/-1.9%
	21:30	米 ニューヨーク連銀製造業景気指数	8月 2.00	0.55

### 【ドル円相場】



### 【対円騰落率(日次)】



### 【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	100.80 - 101.70	1.1110 - 1.1200	112.50 - 113.50

### 【マーケット・インプレッション】

昨日海外市場のドル円相場は、下落する展開となった。注目された米7月小売売上高が予想比悪化の結果となると、米7~9月期の経済成長懸念が広がり、年内利上げ観測も後退したことで、ドル円は一時100円台後半まで下落した。本日のドル円は、本邦で夏季休暇入りした企業も多く、実需の売買が低調なことが予想されることから、小幅レンジ推移の展開を予想する。

東京	東京時間のドル円は101.84レベルでオープン。前日海外時間にダウが史上最高値を更新した流れを受けて、日経平均株価は100円超上昇して寄り付いたものの、ドル円相場への影響は限定的。しかしマーケットの流動性が薄い中、仲値にかけて買い優勢の流れとなると、ドル円は102円を上げて102.21まで上昇した。その後中国の経済指標が発表され、7月鉱工業生産が+6.0%(予想:+6.2%)、7月小売売上高が+10.2%(予想:+10.5%)、7月固定資産投資が+8.1%(予想:+8.9%)と、総じて予想比弱めの数字となったこと等を背景に、102円ちょうど近辺まで押し戻される展開。しかし本邦実需勢がお盆休暇ということで全体的には静かなマーケットとなり、102円を挟んで揉み合い推移が続いた後、102.08レベルで海外市場に渡った。(東京 15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は横ばい、102.08レベルでオープン。アジア時間の流れを引き継ぎ、ドルが買われた。一時は102.28まで上昇するも特段目立った材料も無く、更なるドル買いには繋がらず、102.02レベルにてNYへ渡った。ポンドドルは下落した。1.2977レベルにてオープン。夏季休暇中の投資家が多く、方向感に欠ける小幅な値動きとなり、1.2959レベルにてNYへ渡った。(ロンドン・フリー 00531 444 179 丸野)
ニューヨーク	NY時間のドル円相場は102.02レベルでオープン。朝方発表になった米7月小売売上高が予想以上に弱かったことで、米成長を下支えてきた個人消費への先行き不透明感を強め、米債利回りが急低下する中、ドル円は101.90付近から100.92まで1円程度下落した。その後発表の米8月ミシガン大消費者信頼感指数は予想を下回る内容となったが、ドル円は小幅な下げに留まった。中盤にかけて、ドル円は一時100.82まで下値を広げた場面が見られたものの、100円台では買い戻しも入り、101円台はかろうじて維持された。終盤、ドル円は101.34まで戻したが勢いはなく101.30レベルでクローズとなった。一方、ユーロドルは1.1151レベルでNYオープン。米7月小売売上高と米7月生産者物価指数がいずれも予想を下振れる結果となり、年内の米利上げ期待が再び後退すると、為替市場ではドル売りが強まり、ユーロドルは1.1160近辺から一気に1.1222まで上昇した。その後、ユーロドルは戻り売りに押され1.1159まで軟化し1.1155レベルでクローズとなった。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。